



豊島区

「としま新時代」の幕開け 世界を魅了する芸術文化を発信！

2020年7月19日の聖火リレー10日目は豊島区からスタートします。区を中心駅である池袋駅周辺は次代を見据えたダイナミックな開発が進められ、「国際アート・カルチャー都市」の拠点となる施設が続々オープン。聖火リレーの熱気とともに、豊島のまちに満ちる新たな息吹に触れてみてはいかがでしょうか。

豊島区の価値を高める オンリーワンのプロジェクト

古くから多様性に富む文化を創造する土壌があった豊島区。特有の文化資源を活かし、「文化の力」で日本の推進力となるまち「国際アート・カルチャー都市」の推進に力を入れています。東京2020大会、さらにその先の文化レガシーの継承も視野に入れ、個性と存在感が際立つ戦略的なまちづくり事業が進められてきました。都市構想の基本理念は「まち全体が舞台の誰もが主役になれる劇場都市」であり、「ひと」が主役となって広がるまちづくりは、限らないパワーと可能性にあふれています。「劇場都市」の新たな顔とし

て、2019年末までにお目見えし話題を集めた場所・事業が3つあります。1つ目は世界への文化発信の拠点となる「劇場公園」として大規模リニューアルした「池袋西口公園」です。公園内には、クラシックコンサートやダンス、演劇などが上演される野外劇場、舞台上部に設置された大型ビジョン、そしてシンボリックな巨大リング型オブジェ「グローバルリング」が備えられています。大会期間中にはここでライブサイトが開催され、大型ビジョンを利用したパブリックビューイングが行われる予定です。併設の「グローバルリングカフェ」は、公園に訪れる人々の憩いの場や普段使いとしてはもちろん、

大会観戦に訪れた国内外の観光客の来店を想定し、東京観光の情報を発信する窓口を備え、多言語対応可能なスタッフを配置しています。



池袋西口公園で本格的なクラシックコンサートを

2つ目は1300席の劇場をはじめとする8つの劇場と広場が一体となった「ハレザ池袋」です。ハレザタワーと東京建物ブリリアホールと

しま区民センターの3棟と中池袋公園を加えたこのエリアが、古典芸能からアニメなどの多彩なサブカルチャーまで、幅広い文化と芸術の舞台となつてさらなる賑わいを生み出します。舞台や映画を鑑賞後に、まちに繰り出してその余韻を楽しみ、おいしい食事をしながら池袋を夜まで堪能してほしいとの思いから各施設に飲食や買い物ができる店舗は必要最小限にしています。そうした「アフター・ザ・シアター」構想のきっかけとして、グローバルリングの下で本格的なクラシック音楽を堪能できるコンサートとの定期開催も始まりました。ナイトライフ観光の充実でまちの魅力は一層高まることでしょう。

荒川区

台東区

文京区

千代田区

中央区

江東区

大田区

品川区

目黒区

渋谷区

港区

新宿区



8つの劇場と広場が一体となった「Hareza 池袋」

3つ目は池袋の主要スポットをめぐる電気バス「イケバス」の誕生です。真つ赤な車体とデザインがかわいいこのバスは、1台1台が手作り。

カラフルなシートの座席、寄木細工模様の床など、内装デザインは、全車、少しずつ違います。地域の回遊性を高めることにとどまらず、大きくイメージを変えていくまちの風景に欠かすことのできないシンボルとなっています。

これら文化芸術を広める活動を支えているのが区民です。まちづくりの積極的に参加する機運が盛り上がりつつあり、大会に向けて商店街や地域それぞれつながりの中でおもてなしのまちを目指しています。豊島区は日中韓の都市間文化交流プロジェクト「東ア

ジア文化都市」の2019年開催都市に選ばれました。日本の代表として、マンガ・アニメを中心として多彩なプログラムを展開。区民も大勢参加して、オールとしま体制で文化交流イベントを盛り上げました。豊島区の文化の力は東京2020大会、またさらにその先に向けてますます活性化していくことでしょう。

人と文化がクロスする 多様性が生む文化的活力

東京2020大会のホストタウン事業で、豊島区はセントルシアとバングラデシュ人民共和国、2つの国のホストタウンとして登録しています。遠く離れたカリブ海西インド諸島にあるセントルシアとの貴重な縁をつないだのは、区内で料理教室や英語教育活動を行う青木マーガレットさん。PTAのママさんバレーや、「東京大塚阿波踊り」に参加したりと、パワフルに活躍する地域の有名人です。一方のバ

ングラデシュと区の縁は古く、「ボイシャキ・メラ」という同国の新年を祝うお祭りが2004年4月以来、毎年池袋西口公園で開催されています。日本各地からおよそ5千人ものバングラデシュ人が集うこのお祭りでは、カレーを中心とした料理が屋台で振る舞われ、日本人客も多く来場して大いに盛り上がりがあります。昨年は初めての試みとして、同国の国民的なスポーツ「クリケット」による交流会を開催。区職員も参加して珍しいスポーツ体験を楽しみました。また、区内の小学校では、「世界とまちプロジェクト」の一環として、2019年から20年度へかけて両国出身者による授業を実施していきます。大会期間中には両国選手団を招き、小中学生や区民とのスポーツや文化交流会が実施される予定です。歴史をひもとけば、いつの時代も様々な人や文化を受け容れながら、独自のカルチャーを生み出してきた豊島区。まちとそこに住む人々



区内の小学校で授業をする青木マーガレットさん



バングラデシュの国民的なスポーツ「クリケット」による交流会

が培ってきた寛容で、住みやすく、活気のある地域性は、これからも懐深く世界中の人を惹きつけていくことでしよう。

